

中国新聞 デジタル

<https://www.chugoku-np.co.jp/>
セレクト購読者は全てご覧になれます



結婚後二十数年、専業主婦でした。今、家事やお片付けのセミナー講師をしていると「家事が好きなんです」とよくいわれます。しかし答えは「ノー」。何年たっても好きにはなれません。根っからのズボラ。できることなら家事なんてせずに生きてくてもそうはいかず。ただ、どうやったら家事が楽になるかを考えるのが好きでした。

家事が回らず髪を振り乱して

想



さかした
坂下 さちこ

モノの量＝家事の量

いた過去の私を振り返ると残念な行動が見えてきます。それは何か困るとすぐ「モノで解決しよう」としていたこと。便利そうな調理グッズを見つけては時短になるかも！と購入。手軽にお掃除ができてそうな道具を見つけると即購入。モノがあふれかえると、これならたくさん収納できそう！と、収納グッズや棚を購入。足し算ばかりでどんどんモノが増えていく…。

モノを手に入れて時短や便利さを手に入れたように思えますが、同時に失うものも発生します。便利な調理グッズはスピーディーに活躍してくれますが、構造が複雑で洗いに手間がかかるし、大きくて形がいびつだと収める場所にも困ります。便利を手に入れたようで結果的にはそうでもなく、メンテナンスの家事が増え、収める場所も奪われ、お金だって失います。

メリットとデメリットはいつも背中合わせ。結局、モノが増える「管理する家事」「保する家事」といった新しい家事が生まれ、さらには空間や収納スペースまでも奪われて家事動線が悪くなるという悪循環。もはや家事が楽になるどころではありません。

便利そうに見えて実は便利ではない。モノを手放せたら家事も減る。モノの量＝家事の量。

この事実が気が付いた人が、モノに縛られず軽やかに家事をする人に生まれ変われます。モノを手に入れることが豊かさの象徴ではない。目に見えないモノにどれだけ豊かさを見いだせるか。これからの新しい時代の歩み方は、家事やモノの持ち方一つ取ってもヒントは潜んでいるものです。

(整理収納アドバイザー・時短家事コーディネーター)